

人間としての生き方についての自覚を深める指導の工夫 ～生き方モデルから学ぶ道徳の時間の教材開発を通して～

道徳班 浅見 俊之(中学校教諭)

◇研究の概要

本研究は、道徳の時間において、魅力的な生き方モデルを通して、人間としての生き方を考えさせる指導の工夫を目指したものである。具体的には、生徒の実態や内容項目に応じた生き方モデルを自作資料やICTを活用した補助教材を用いて提示し、その人物に触れ、その生き方を考えることによって、生き方についての自覚を深めさせる授業を実践した。

《生徒の実態》

- 自分の苦手なことに対して、前向きに挑戦していこうという意欲が足りない。
- 自分を肯定的にとらえられず、自分の個性を伸ばしていくことに消極的である。



生徒の実態や内容項目に応じた生き方モデルの人選

実践① 桑田真澄選手
実践② 奥野敦士さん

栄光の裏にある人間性を磨くための努力を通して、何事にも前向きに挑戦しようとする心情を育てたい。
逆境の中でも力強く生きる姿を通して、自分の個性を生かし、充実した生き方を追求する心情を育てたい。

出会う

自作資料(読み物資料)

実践① 桑田真澄選手

主題名 人間性を磨く
資料名 『心の野球』(幻冬舎)

実践② 奥野敦士さん

主題名 自分らしく生きる
資料名 『終わりのない歌』(双葉社)

ICTを活用した補助教材(写真・映像)

桑田選手の高校時代

5大会連続 甲子園出場
1年生(夏) 優勝
2年生(春) 準優勝 (夏) 準優勝
3年生(春) ベスト4 (夏) 優勝
甲子園通算20勝は最多勝利

桑田真澄選手の紹介画面



奥野敦士さんが歌う様子

考える

ねらいとする価値に迫る発問の工夫

実践① 人間性を磨く

桑田選手はなぜ「裏の努力」を続けたと思いますか。

実践② 自分らしく生きる

奥野さんにとって「歌(歌うこと)」は何だと思いますか。

自覚する

自分自身に向き合い振り返る時間の設定

実践① 生徒の感想

「最後まであきらめずに頑張れば必ず報われる。裏の努力をすることで心も磨かれる。今の自分の悩みも、ゴミ拾いや靴の整頓をすることで、何か発展してくるかもしれないと思った。」

実践② 生徒の感想

「自分らしさは、どんなに辛くて苦しくても、自分らしさを大切にしていこうということ。ただ幸せな人生を送っているだけでは自分らしさが出せないと思う。だから私は、どんな困難があっても、奥野さんみたいに乗り越えて、自分らしく生きていきたいと強く思った。」



実践②では、授業の感想を文集にまとめ、奥野さん本人へ直接届けることができた。

人間としての生き方についての自覚を深める

◆成果と課題

- 生徒の実態や内容項目に応じた生き方モデルを人選することで、ねらいとする価値に迫ることができた。
- ICTを活用した補助教材として、写真や映像を用いることで、その人物像の理解を助けることができた。
- 自分を振り返らせながら、その人物から感じたことを書かせることによって、価値の自覚化に有効であった。
- 道徳的価値の自覚を深めるための中心発問や補助発問など、発問の工夫を工夫していくことが必要である。
- 生き方モデルから学ぶ道徳の時間を年間指導計画の中にどのように位置づけていくのか検討していく必要がある。